

大通地区のエリアマネジメント推進（北海道・札幌市）

札幌・大通地区の商店街が連携し、オープンカフェの恒常的实施による賑わいの確保と歩道環境の改善とともに、新たな掲出手法による「エリアマネジメント広告」※により更なる収益性を確保し、民間主体の持続的なまちづくり活動の基盤を確立する。

※エリアマネジメント広告…景観に配慮した屋外広告の管理を行い、その収入をまちづくり活動に活用

エリアマネジメント広告
(地下街出入口) ↓



↑オープンカフェ
(歩道の車道側)

平成21年度の主な取組

- ① 参加店舗を拡大し、夏期を中心に歩道の店舗側を活用したオープンカフェを実施
- ② 広告価値を高める新たな手法(内照式)による掲出実験とバナーフラッグの掲出内容に関する実証実験等を実施

平成22年度以降の展開

オープンカフェ事業及びエリアマネジメント広告事業の成果を踏まえ、札幌大通まちづくり(株)(H21設立予定)による本格実施へと展開。会社運営の安定化や賑わい創出・確保とともに、更なるまちづくり活動の展開を図る。

洞爺湖周辺地域エコミュージアム構想における官民協同型運営に向けた人材育成事業（北海道・伊達市、洞爺湖町、壮瞥町、豊浦町）

広域連携による「地域住民の学習の場の創出」「火山との共生の歴史の伝承ー将来の減災」「産業の育成と観光振興の推進」を目指す『エコミュージアム構想』の更なる定着を図るため、地域主体の運営となり得る人材の発掘・育成・ネットワーク化等を実施。



↑災害現場見学
モデルツアー

1市3町の住民会議
↓の交流会



平成21年度の主な取組

- ① 住民会議、観光業団体との連携による官民協働の観光受入体制を構築
- ② 住民によるエコミュージアムガイドを盛り込んだモデルツアーの実施。モデルツアーを踏まえた学習観光ツアーの商品化

平成22年度以降の展開

平成21年度までに構築された官民協働体制により、プロモーション活動、サイン看板等のハード整備、更なる住民ガイドの育成等により、本格的なエコミュージアムの運営を図り、観光客数増、災害文化の継承、広域生活圏・観光圏の創出などによる地域活性化と地域防災力の向上を図る。

『笑友(エミュー)』で再生！あばしり元気プロジェクト

～地域内循環型ビジネスの実証研究～ (北海道・網走市、置戸町、斜里町)

厳しい地域経済状況の中、低カロリー食肉や保湿性のあるオイル等の事業化が見込めるエミューを新しい地域資源として活用するため、飼育実証実験等を通じて生産から加工・販売まで一貫して行い、地域内で付加価値を最大限に高めるビジネスモデルの確立を目指す。



EMUモイスチャーオイル
(モニター用サンプル)→



↑新規飼育者とエミュー
イベントへの出店→



平成21年度の主な取組

- ① 飼育実証実験の更なる展開(飼育羽数・飼育者数の拡大、産卵環境(雄雌ペアリング)の確立等)。
- ② エミュー製品(オイル・肉等)の大都市圏における中期的モニター調査や見本市・展示会への出店、食肉流通に向けた鮮度保持(急速冷凍)技術開発。

平成22年度以降の展開

新規飼育者の募集及び独立支援による生産数の拡大を図るとともに、エミュー製品の北海道や大都市圏への販売促進や完全地域内加工に向けた施設整備の検討など、地域内ビジネスモデルの確立に向けた展開を図る。

船が生まれ変わるまち室蘭プロジェクト (北海道・室蘭市)

安全かつ環境上適正なシップ(船舶)リサイクルへの取組が国際的に進められる中、廃船の解体につき、生産縮小に伴い休眠状態にある既存の造船所や製鉄所の施設を活用し、産学官連携により、解体処理から高付加価値製品への再生に至るまでの一連の事業を通して、地域産業の新たな展開を図る。



↑海岸に廃棄された船舶

↓船舶の解体作業



平成21年度の主な取組

- ① 船舶を実際に解体することにより、前年度に行った解体工程の技術的手法やコスト等に係る検討結果を実証
- ② 環境負荷を確認するため、船舶解体現場の水質・大気・騒音等の環境モニタリングや、CO2排出量の計算を実施

平成22年度以降の展開

余剰となった自動車専用船(PCC)や、まぐろはえ縄漁船を解体し、鉄スクラップを高付加価値製品として再生するなど、室蘭地域において経済性及び環境への配慮を踏まえたシップリサイクルを、事業として本格的に展開する。

とち朗トレイルによる農業・商業・工業の活性化

(北海道・新得町、鹿追町、清水町、上士幌町、士幌町、音更町、芽室町、帯広市(十勝西部圏域))

大雪・十勝連山に代表される雄大な自然景観や、豊富な農畜産物等の地域資源を有する十勝地域において、健康や環境をキーワードとする「地域をゆっくり歩く旅(朗トレイル)」の展開を通じ、新たな観光スタイルの定着を図るとともに地域内産業(農業、商業、農産物加工業)との連携による産業振興を図る。



地域食材を使ったランチを味わうトレイル参加者 ↓



↑ 21年2月の実験トレイル

平成21年度の主な取組

- ① 地域の農林業、農産物加工業、サービス産業などに関連した、地域性豊かなツアープログラムを夏期を中心に実験的に開催
- ② 来訪者の受入態勢強化等を目的とする、ガイド等人材育成事業の実施

平成22年度以降の展開

朗トレイルを旅行会社と連携してツアー商品化するとともに、地域内での関係者間の連携を強化し体制整備することにより本格的な展開を図る。また、全道、全国の朗トレイルイベントとの連携を強化し、朗トレイルの一層の知名度向上を図る。

「恵庭型プレイセンター」社会実験プロジェクト (北海道・恵庭市)

乳幼児(3歳以下)の多くが在宅育児であり、転入者が多く家庭と地域の結びつきが薄い地域の現状を踏まえ、親が協働で運営する幼児教育・保育のシステム「プレイセンター」の立ち上げ及び普及により、社会的課題でもある地域と連携した子育て環境のモデルを構築する。



ボランティア・市民グループとの交流促進 ↓



↑ お父さん向けコース

平成21年度の主な取組

- ① プレイセンターの自立運営に向け、親による協働運営体制の確立、担い手となるスーパーバイザーの養成等の実施
- ② 転入者へのセミナー、夏・冬休み短期コースの開催等、異なるニーズへの対応
- ③ 周知活動の展開(子育てツアー(プレイセンター体験事業)、セミナー等)、ボランティア・市民グループとの連携強化

平成22年度以降の展開

プレイセンターの自立運営を維持・発展していくとともに、新たなグループの立ち上げ、空店舗等を活用した活動拠点の整備等により地域内での活動を拡大展開し、地域と連携した子育て環境の実現を目指す。

「てんぽくツーリズム・ブランドの確立」にむけた基礎調査と社会実験 (北海道・幌延町、天塩町、遠別町)

必ずしも有名観光地としては認知されていないものの魅力的な地域資源を有する留萌北部地域において、複数町の民間団体が主体的に連携し、豊かな自然や食などの地域資源の有機的な結合により地域の魅力を最大限に引き出すとともに、この取組を組織的・持続的に高める体制の確立を図る。



↑農高生が開発した商品の販売実験

シジミのトレーサビリティに関するシステムの検討 →



↑地場産の食材による料理を提供するモニターツアー



平成21年度の主な取組

- ① 夏・秋期のモデルツアーの実施、開発商品の市場成立性の検討、地域生産物トレーサビリティ・システムの本格化、来訪者等に対する情報発信システム構築のため、プロジェクトごとに実証実験等を実施。
- ② 個別プロジェクトの全体調整をツーリズム・マネジメントを担う組織の設立に向け、専門家の招聘等による検討。

平成22年度以降の展開

ツアーの企画・実施や開発商品の販売の本格化、トレーサビリティシステム及びマーケティングシステムの構築、人材育成システムの稼働等を行うとともに、これらの取組を担うツーリズムマネジメント組織を設立し、「てんぽくツーリズム・ブランド」の確立を図る。

士別羊のブランド化への挑戦～士別羊を松阪牛や神戸牛を上回るブランド肉に～ (北海道・士別市)

近年、羊肉に対する消費者からの関心が高まる中で、長年にわたる羊の飼養により蓄積された安全・安心な高品質肉の生産技術をもとに、サフォーク種の羊をブランド肉に押し上げ、高付加価値化と観光資源化を図り、農業経営の多様化・安定化を図る。



↑士別羊料理コンクール



↑人工授精により誕生した子羊



←羊肉を活用した製品

平成21年度の主な取組

- ① ブランド肉として大都市圏に安定出荷するため、消費者・実需者に対するニーズ調査及び販路拡大のためのPR活動を実施。
- ② 肉質評価委員会の策定した基準による肉質の格付けの実施及び肉質の高位平準化等のための技術の確立。
- ③ 羊肉・羊毛を活用した製品の商品化・販売促進及び新規施設を活用した観光振興の実施。

平成22年度以降の展開

大都市圏への羊肉の安定供給に向けたニーズ対応、計画的安定出荷を進めるとともに、飼養マニュアル等に基づいた付加価値を付した収益性の高い生産体制の確立により、ブランド「士別羊(しべつひつじ)」の確立、農業経営の多様化・安定化、雇用の拡大、観光振興を実現。